

NIHONJIN NO WASUREMONO  
**日本人の忘れもの**  
 第2部 忘れもの 10  
 華 森 清 範 清水 寺 貞 主

**邦楽**



小山菁山  
尺八演奏家

古希を越え、健康寿命(厚労省が算出した自立して生活できる年齢)を越え、後期高齢者に近づいてきた。ありがたいことに戦後からの激変した生活形態の変化をほとんど体験し、これからのことを考えると一番良き時代を生きてきたという幸せをかみしめている。

邦楽を次代に残すため、子どもたち、孫たちの世代に日本古来の感性のつながりを伝えていかななくては。

では必須の作法である。私も古典邦楽を演奏するときはほとんどが正座であ

る。正座をすると気が引き締まるという気持ちには誰もが経験したことがあると思う。しかし、その機会は日常生活においても生活環境の変化で大幅に減少している。

一つの道の基礎を学ぶには3年は辛抱せよということ

私が属している尺八界のことわざに「首振り三年」という言葉がある。これは、尺八という楽器で揺りを入れた良い音を出すのに3年はかかるということ。別の角度から言うところ、なんでもひとつの道の基礎を学ぶのには3年は辛抱せよ。ということであろう。

邦楽三曲(箏・三味)



日本固有の文化の本質が、伝統芸術に生き続けている

かつて、中国など大陸から渡ってきた文化を日本の自然環境や日常生活の中で、長い時間をかけて、この国の風土に合致するよう改良を加え、日本独自の文化を生み出した。われわれが失ってはならない日本固有の文化、美しさの本質が日本伝統芸術の中に脈々と生き続けていると思っている。



「小山菁山尺八リサイタル」での都山流尺八秘曲「懐月調(こげつちよう)」の演奏。席書きは蘇東坡(そとうば)の詠んだ「赤壁の賦(せきへきのふ)」の一部。



線(尺八)で、古典芸術といわれているものは、箏曲「六段の調」で有名な近世箏曲の父、八橋校校(没後328年)を始めとする盲人社会で発達した江戸幕府になってからの音楽である。三味線もやはり、尺八にいたっては江戸時代も終わりに近く、しかも、虚無僧音楽から脱皮したのは明治に入ってからなのである。とはいっても、西洋音楽の父といわれるJ.S.バッハが生まれた年に、八橋校は71歳で亡くなっているのだ。明治維新までの徳川時代260余年の鎖国政策にあって日本独自の音楽や文化が完成されたのである。

戦後、日本人は物の豊かさと引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新的知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)

●こやませいざん  
 1940年、京都生まれ。尺八歴57年。都山流竹軒大師範。現在、都山流として各地の道場や派遣講習で都山流の古典を指導している。京都三曲協会設立に関与し、会長等を歴任。現在顧問を務める。2005年、京都市芸術功労賞受賞。

きょうの季寄せ(九月)

その時幾十萬人  
 死にしを知らず  
 蜻蛉かな  
 松根 東洋城



大正12年9月1日は関東大震災のあった日である。従来の歳時記では「震災忌」といって、この震災を指している。死者行方不明合わせて十数万人。掲句の数と離隔があるが、いずれにしても被災者を追悼する日である。掲句の破調、哀切の情がふれて型におさまりにくい。  
 東洋城は「こぼるぎよ地輪折れしと人のいふに」と恐怖を共有する。(文・岩城久治)

「きょうの心伝て」

西澤義博  
 金融機関の窓口で応対してくれた行員の筆記具の持ち方が普通でなかった。筆記具を垂直に立てて人差し指と親指で巻き込むように握って文字を書いていた。  
 金融機関の窓口の方といえば、その店の顔でもある。今のご時世、パソコンのキーさえ打てればそれで用が足り、筆記具の持ち方も重視されていらないのかもしれない。  
 他所で大人の筆記具の持ち方を見てみると、同じように人差し指と親指で巻き込んで握っている人を見かけた。また、食事の席で箸の持ち方を見てみると正しく使っていない人もいた。  
 筆記具や箸の正しい持ち方は、日本の文化である。いい加減に扱っていても、本人は別段困らないのかもしれない。しかし、そのような姿は日本の文化の衰退である。美しき姿が美しいと書くように、決して美しい姿ではないことは確かなことである。

「きょうの心伝て」

●あなたの思う「日本人の忘れもの」は何ですか?暮らしの中で忘れてはならないと思う日本人の心の承継や、伝えたい京都市に残る心遣いなどを寄せて下さい。京都新聞社で選考、添削する場合があります。原稿は返却いたしません。タイトル(12文字以内)と本文(400文字以内、郵便番号、住所、氏名(匿名は不可)、職業、年齢、電話番号を明記し、〒604-8577 京都新聞COM「きょうの心伝て」係まで。  
 E-mail: asakuraonohi@kyoto-np.co.jp  
 Fack: 075-222-2200  
 ●日本人の忘れものは、京都新聞ホームページ/kyoto-np.jp/kyo\_nm/info/nwm/よりご覧いただけます。

125年目の鼓動、いよいよ。

京都ホテルオークラは来年、おかげさまで125周年を迎えます。  
 明治21年(1888年)の創業以来  
 数々の物語を紡いできた歴史を大切に  
 これからも皆さまから愛されるホテルを目指してまいります。  
 125年分の感謝をこめて  
 鼓動高鳴る京都ホテルオークラにどうぞご期待ください。

EVENT INFORMATION

**CHRISTMAS DINNER SHOW 2012**

京都ホテルオークラ  
 クリスマス  
 ディナーショー  
 2012

12.17 [月] ¥35,000  
**コロケ**  
 9月4日(火) 10:00~発売開始

12.20 [木] ¥40,000  
**HIROMI GO**  
 9月7日(金) 10:00~発売開始

ご予約・お問い合わせ: イベント予約係(9:00~19:00)  
 発売初日専用 / TEL.075-254-2594 発売2日目以降 / TEL.075-254-2566  
 詳しくはお問い合わせください

**京都 ホテル オークラ**  
 〒604-8558 京都市中京区河原町御池  
 TEL.075-211-5111(代表)  
 http://okura.kyotohotel.co.jp/

創業当時(明治20年代)